

製品名: DAPK3 (リン酸化 Thr265) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04537**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	DAPK3
別名	DAPK3; ZIPK; Death-associated protein kinase 3; DAP kinase 3; DAP-like kinase; Dlk; MYPT1 kinase; Zipper-interacting protein kinase; ZIP-kinase
遺伝子 ID	1613.0
SwissProt ID	O43293
免疫原	抗血清は、Thr265 のリン酸化部位周辺のヒト DAPK3 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 241-290

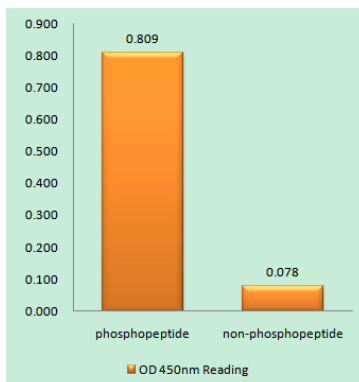
背景

細胞死関連タンパク質キナーゼ 3 (DA PK3) は、哺乳類細胞で過剰発現すると、アポトーシスの形態変化を誘導する。これらの結果は、DA PK3 がアポトーシス誘導において何らかの役割を果たしている可能性を示唆している。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: アポトーシスの正の調節因子として働くセリン/スレオニンキナーゼ。有糸分裂中にセントロメア のヒストン H3 の「Thr-11」をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。DAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: PAWR に結合すると細胞質に移動し、複合体はアクチンフィラメントと相互作用すると考えられる (類似性による)。前期から後期にかけてセントロメアに結合する。サブユニット: ホモ二量体、または ATF4 とヘテロ二量体を形成する。どちらの相互作用にもロイシンジッパードメインが損傷していないことが必要であり、完全な酵素活性を得るにはオリゴマー化が必要である。DAXX および PAWR にも結合し、おそらく三量体複合体を形成してカスパーゼ活性化に関与する。AATF および CDC5L と相互作用する。、

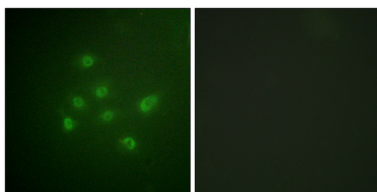
研究分野

がんの経路;膀胱がん;

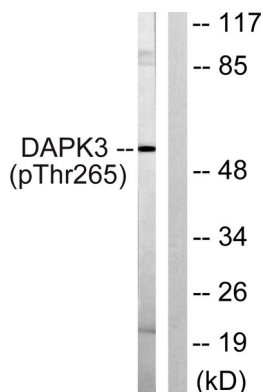
画像データ



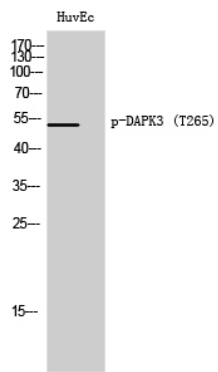
DA PK3 (リン酸化 Thr265) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



DA PK3 (リン酸化 Thr265) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



DA PK3 (リン酸化 Thr265) 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 DAPK3 (T265) ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析